緑友だより

No. 11

全国印刷緑友会機関誌

東京都墨田区本所4－29－17　(社) 日本印刷技術協会

日本印刷技術協会を育てよう！

幹事長　白石　豊

昨年の印刷産業界における十大ニュースを私が選んだとすれば，日本印刷技術協会の発足をトップにえらんだ事でしょう。

私達は，印刷産業の社会的地位向上を合言葉にしていますが日本に印刷図書館が出来た時に，その礎石の一つがおかれたのです。また，研究と教育を二つの柱として全体的なまとまりのある構想のもとに，日本印刷技術協会が創立された時，私はここにも社会的地位向上の礎石がおかれたと感じました。

大企業には研究，開発，教育の機関が整備されているのに比べ，中小企業にはそれが欠けております。共同研究と社員の教育は，たいそう遠い廻り道のように見えて，実は企業成長発展の一番確かな近道なのです。

「利益がない，資金繰りにいそがしい，競争に追われるというのに研究教育どころではない」と言っていては，打開の方法を自ら放棄するものです。このことは日本全国の中小企業の経営者も従業員も，皆わかっておられる事でありましょう。しかるにせっかく発足した日本印刷技術協会―とりわけ通信教育部門は，申し込み者の数がはなはだ少ないために，継続をあやぶまれる程になっています。

これは，まだ技術協会の存在と利用の方法，その効果がよく知られていないからだと思います。本号を「日本印刷技術協会特集」としたのは，緑友会の若々しい力をもって，技術協会を応援しようというに他なりません。

日本印刷技術協会の創立は多くのすぐれた先輩のお力によるものでありますが，その実務にあたったのは，われわれ緑友会の仲間である塚田さん，市村さん，小堀さんたちでありました。中小企業の力をまとめれば，大企業に匹敵する研究教育機関が運営できると信じて，一身をかえりみず創立の苦難の道を歩んだ人達の中に，われわれの仲間があったことは，緑友会の誇りとしてよいことがらであります。

どうぞあなたのグループ，あなたの企業にとって日本印刷技術協会がいかに貢献できるかをご判断下さい。

技術協会を育てる姿のなかで，実は私たち自身が――日本の印刷界が生かされるのです。

緑友の皆さんと共に

日本印刷技術協会常務理事
株式会社同美印刷取締役社長
市　村　元　偉
（印刷同友会）

かつて塚田さんと二人だけの時，業界の教育問題については今後もしっかりやりましょうと語りあったことがありました。印刷同友会の塚田さんは，ご承知のように業界の近代化の中心的な頭脳として活躍されておりますが，私にできることとしては教育に関するものしかお手伝いする能がありません。これすらおこがましいことと思いますが。業界人としてたとえ微力でも自分の業務のかたわら，業界に一石でも積み上げる努力を尽すことは当然の責務であると思うからです。それ故，緑友の皆さんも同志として，今日まで，そして将来も共に心と心を結んで歩んでいると思います。

技術協会についてはすでに十分ご承知のことと思います。趣意書もポスターも全国の業者の手許に届いておりますし，全印工連の役員会では何度も議題にとり上げられ，業界紙も多く報道しております。それなのにどうして著しい進捗をみないのでしょうか。勿論その進め方についての拙劣さもあり，根本的に地ならしの上に立てなかった事情もあり，協会として反省をしております。しかし少なくとも緑友の仲間に限って，これに対する積極的な提言や参加がもっとあってよいのではないでしょうか。この協会は一部特定の人のためでは勿論なく，われわれ自身のものとして，どうしても造りあげなければならないものです。それならば，それを可能にさせる深い関心と努力は，次代を担う緑友の仲間から積極的に推進していく以外にないと心から思います。

個人的なことになりますが，塚田さんの奥さんが去年の暮，椎間盤ヘルニヤのため6時間の大手術をうけ，今日まだ病床にあります。その手術の翌々日，組合の会議が夜までつづき，帰りに一緒でしたが，車中で女房の病院へいってやりたいけれど，今日も時間切れだと独りつぶやいておりました。人誰れでも肉親の大病に一時でも病床に顔をみせたいのが人情です。しかし彼にはそれすらも許されない業界の仕事が彼を取りまいておるということは，あまりに非情ではないでしょうか。協会についても悲痛な悩みを彼一人に持たせるような状態に置くことは間違っていると思います。彼の日常を知る私は，非力とは思いながらも，協会の教育委員会の仕事を手伝っております。小さな器に大きな仕事は溢れるばかりで，自分ながら情けなく，申訳ないと強く反省しながらも，じっと耐え忍んで何とか少しでもお役に立ちたいし，自分なりの責務の一端を果たし，早くもっと有力な方に代っていただきたいと念じております。幸い，前幹事長の小堀さんをはじめ同志の方々に大変お世話になり，少しずつでも進んでおります。

緑友の皆さん！一日も早く一人でも多くこの協会に，特に通信教育へ参加して下さい。全国印刷従業員数は約25万8千人といわれ，緑友会員は890名ですから，もし緑友会の仲間の各会社から平均5名の受講生の参加があれば，たちどころに所期の目標は突破できるのです。今日現在で通信教育受講生は製版関係で1905名，印刷関係で871名，計2776名という淋しい現状です。最低4000名を確保しないと毎月赤字の累積です。勿論，経済問題がついてまいりますので簡単にはいかないと存じますが，進んで参画されて，正しい，より良いものへと発展させていたゞきたいと，心からお願いします。

（43.2.28）

日本の印刷技術を想う

日本印刷技術協会専務理事
錦明印刷株式会社取締役社長
塚　田　益　男
（印刷同友会）

去年の春のことでした。私たちが通産省と印刷技術協会の社団法人について討議を進めている過程で，面白いことが議題になりました。印刷技術というものは存在するのかという問題です。印刷は良い紙，良い機械，良いインク，版があって，それに良い技能があれば品質の良い印刷物ができる。そうなると印刷で必要なのは製紙技術，機械技術，化学技術であって印刷技術ではない。印刷には印刷技能だけで良いではないか。工業技術院の工業技術分類の中にも印刷技術はあるのだが，印刷の場合，技術とは何か，技能との違いは何かということを明瞭にいえるだろうか。大体こんなことが議論の対象になったのです。

私はここで技術論を書こうというのではありませんが，念のためにいえば，印刷技術は存在するのです。

技能とは与えられた生産手段，技術を使い，与えられた作業標準に基いて作業する能力をいいます。技術とは印刷側からの生産手段の開発，改良，検査・測定器具の開発・改良，生産手段の組合せ技術，作業手法の開発・改良，作業標準の改良などを意味します。

このように技術と技能とは明らかに違うカテゴリーのものなのに，正面から印刷技術は存在するのかといわれると，すぐに答えがでないのです。印刷はそこに問題があるのです。印刷は多種少量，受注生産であるために，材料である用紙，インキ，生産手段である機械，版などが日常茶飯事のように異ります。その上，工程が原稿作成から製版，印刷，複版，加工，製本までたくさんあって，そのどれもが分断されているのです。従って材料管理，工程管理，精度管理など技術に属することが日常の問題として入ってくるのです。大量生産のできる他産業のように，技術者が研究室に居ては役に立たないのです。経営者は勿論，工務責任者は印刷技術者でもなくてはならず，技能者といわれる人も，その程度によってある時は技術者として判断を下さなくてはならないことがあるのです。

技術のカテゴリーの中に入るいくつかの分野が日常作業の中に入っているので，印刷技術はあるのかと問われると驚いてしまうのです。このことは反面，印刷とは非常に技術が大切な産業で，技術の悪い企業は成り立たないということを意味するのです。

まして印刷は，技術革新の真只中にあるのです。経営者も作業者も技術の吸血鬼のように貪欲になっていてもおかしくない最近です。

さて本論に入りましょう。印刷技術は今後どのような経路で発展するだろうか，そしてそれに対し経営者はどう考えたらよいだろうか，技術協会の使命は何だろうか，などについて考えて見たいと思います。

1950年代から60年代初期の印刷技術はインノベイションというものはありませんでした。それまでの技術進歩は理論的には30年代，40年代と開発された技術の改良であり，標準化であって，技術から技能への橋渡しが中心課題だったのです。それが60年代に入ると共に高分子化学，エレクトロニクス，コンピューターなどの理論の実用化が急速に進みはじめ，それにつれて機械工学も進歩し，いわゆるインノベイションが急ピッチでスタートしはじめました。凸版・平版という私たちの身の囲りの印刷技術にでさえ，モノタイプ，スキャナー，プラスチック複版，合成樹脂感光支持体，光電制御装置，無

伸縮フィルムベース，などが日常の作業に入ってきました。これらの技術は70年代に入れば加速度をもって進むことでしょう。

宇宙科学をはじめとする一連のビッグサイエンスで開発された各種の技術は，産業機械にどんどん応用されてくるでしょう。コンピューター，ファクシミリの小型，高性能化の実現により，ホームファックスが実用化され，新聞印刷，百科事典は消滅するでしょう。文字組版は完全に機械化され，ホットタイプからコールドタイプに変り，作業場から活字がなくなり，テープパンチング機と電気機器だけが動いている作業場になるでしょう。プラスチックポリマーやレーザの実用化により印刷版はコスト安で品質の安定した良いものがえられるようになりましょう。スキャナーは高性能，小型化し，一般的に使用され，カラーフイルムやインキの改良と共に，カラー分解，製版作業は全く安定したものになります。印刷機は用途別に単能化され，いくつかの工程がコンバインされるでしょう。これらの技術変化は何も印刷界だけではありません。70年代には産業界全体，医学，家庭生活，教育など，あらゆる面で変化があるのです。そしてそれらの変化は社会生活の中心であるモラルの形態さえ変化させるかも知れません。

これらのことがある程度予見される時代に突入したのですから、私たちは将来，これらにどうやって適応していくかを考えなくてはなりません。適応できなくては経営者として社会の第一線から落伍しなくてはなりません。未来学ではこの問題を未来ショックとして重視しています。もし社会の第一線リーダーである経営者が，これら自然科学の進歩に適応できないとしたら，それこそ人間社会はＳＦ小説もどきの機械というモンスターが支配する社会になってしまいます。50～60年代の技術は合理化の問題だったのです。その変化はどちらかというと連続概念でとらえることのできるものでした。それにも拘らず，印刷界ではその近代化という変化にも適応できなくて落伍する人が多く，階層分化が進む一方です。未来ショックどころか近代化ショックさえ克服できないようでは困ったことです。

こうした展望と環境変化の中で技術協会が誕生したのです。新しい時代への集団防衛であり，挑戦でもあるのです。しかし新しい組織づくりにはいくたの困難がつきものです。私自身は長い組合役員経験から充分とるべき順序はふみ，意見はきいてきたつもりです。そしてそこには欠陥はないと信じていました。しかし一方ではタイミングが必要です。遅れれば遅れるほど，印刷人のショック症状は悪くなるのです。適応能力のある中に作らなければ印刷界は混乱するのです。私は今こそタイミングだと考えたのです。今，印刷研究者，教育者を養成しなくては，組織を作り，活動をはじめなくては，何時その機会があるでしょう。この一年私たち協会関係者は力の限り努力をしてきました。しかし業界はなかなか理解を示してくれません。国の方で心配し補助金を決定してくれましたが，それより欲しいのは業界の理解です。

新しい時代は新しい人々によって推進されるのです。それは若さにあふれ，弾力性，適応力ある緑友の諸君，あなた方をおいて誰れがあるでしょう。どうか技術協会を育てて頂きたい。あなた方が中核となって，入会勧誘に，通信教育に努力をして下さい。私の義務は協会を印刷界に役立つものにするまでの創立の仕事であって，それが終ればさらに新しい人々によって管理してもらいたいと思っています。設立過程で私が犯した誤ちがあれば幾重にもお詫びをいたします。許せなければ専務役員をとりかえても良いのです。しかし技術協会だけは育てて頂きたい。**明日の印刷界に夢と希望を。**

研究部のしごと

日本印刷技術協会常務理事
松　尾　真　利

研究部は研究・開発部門と報知指導部門の二つに分けられます。

研究開発部門は現在の生産手段，生産様式とかその周辺にある諸材料と手段との関係などをとりあげ，更に将来の方向に対して具体的な解決のための仕事をします。

報知指導部門では現時点で生産性とか品質などの阻害をしている現象と原因を究明しとり除く仕事をいたします。すなわち現場の中に多く残されていること，またこれから出てくる問題の解決，能率向上のための具体策などについて各企業のおかれている立場とか成長して行く方向に沿った形でとりあげ，周知徹底させるということをいたします。

従って両部門ともに現状の問題解決の事業活動に比重を多くかけ，純粋に将来のことに関する研究はやや比重が少ない形で仕事は進められます。

研究，試験，実験設備などは通産省の補助金を中心として整えることになっています。

研究部門の現在の研究課題は(1)モノタイプについての改良(2)中小企業向平活版印刷機の改良(3)合成樹脂版材（平活版とも）の研究(4)印刷適性試験機の開発(5)被印刷物および印刷インキの適性の解明です。

報知指導部門では日常生ずる故障，クレームなどの対策についての解決および現場指導などが主になっています。この部門の諸活動を会員に定期的に報知するために研究部門としては次のような刊行物を会員に無料配布しています。

協会ニュース（月１回）印刷文献アブストラクト，印刷技術資料，研究報告（ともに年４～６回）技術協会レター（不定期）

以上の他に電話、手紙，訪問による質問相談についてはその都度具体的に回答をいたして必要があれば現場にも出かけております。

技術，管理などの諸講習会，ゼミナーコンサルトなども計画に従って東京だけでなく，全国各地で開催する予定です。

研究部は研究委員会によってとりあげる研究とか諸活動の方針がきめられますが，日常の生産に関する問題については，会員の皆様からの積極的な働きかけを期待しています。

営業と生産と両方をより活潑にし，成長して行く企業となるためにはあらゆる問題点を，時のおくれがないように解決することが何よりも大切ですし，そのためにはより多くの情報量をもとにした判断が必要であると思います。

微力ですが，緑友の皆様方の御期待にそえる活動をやっておりますし，今後は益々充実いたしたいと考えております。皆様方の御指導とお力添えをいただければ誠に幸です。

教育部のしごと

日本印刷技術協会常務理事
中　市　良　平

通信教育のあらまし

1. 学　科

1 凸版整版科，　2 凸版印刷科，
3 平版印刷科，　4 写真製版科、

2. コース

1) 普通科コース
——初心者向，修業年限2カ年
（内容）標準作業手順によるただしい作業の進め方と，基礎になる理論を学び，技能士補の合格と二級技能検定をめざす。
（対象）初心者および，二級技能検定受験資格に達しない人々

2) 高等科コース
——中堅管理者，修業年限2カ年
（内容）高度の技術に関する方法と，それに必要な理論を学び，一級技能検定の合格をめざす。
（対象）おおよそ二級技能検定の受験資格をもっている人々

3) 研究科コース
——管理者，修業年限なし
（内容）企業に必要な専門的な各種の管理技術を学ぶ。
（対象）高等科の卒業生，管理監督者

3. 教育の方法

① 教 科 書，各科ごとに教科書を指定します。
② 指 導 書，教科書の内容を各コースに分けて，さらに補講解説し，毎回分冊にして機関誌に同封する。

写真製版実技指導のしごと

教育部では，通信教育のほかに実技指導を受けもっています。ただ，今秋，杉並に本建築が完了するまでは，印刷機械（凸版，平版）による実技指導はおこないません。従って，現在は，写真製版工程の実技指導だけをおこなっております。

実習の目的は，通信教育における実技スクーリングのほかに，一般向けの初級者に対しては，この実習を通して，印刷人として生涯勉強をつづけるために，その全容をあらかじめ体験させ，勉強——通信教育への導入としたと願い，また一般向け再訓練としては，新しい機械・材料に接する機会を与え，計数的な作業管理方法へ切りかえる必要性を自覚させることにあります。

従って，実習の方法は，理論よりは実際に作業することに重点がむけられています。また公的な機関として，特定の機材にのみ限定し，長所のみ教授する，といった方法はとりません。さらに通信教育の場合と同じく，人格の向上を目ざして，作業態度は厳格に指導し，前後の清掃なども励行させる訓練をおこなっています。

印刷技術はどんどん進歩し，いろいろと変化しています。これからの会社の発展をはかるには，経営者も中間管理者も，第一線も揃って勉強を始める以外にありません。技術の勉強はもちろん大切ですが，同時に豊かな教養をもとめ，人格の向上をはかることもぜひ必要なことです。

印刷界における日本と欧米諸国とのちがいは，教育とか研究に関する施設のスケールがまったく異ることであります。

社団法人日本印刷技術協会は，印刷界のおくれたこれらの面を充実し，業界にたずさわる人々の向上進歩のため，印刷産業界の30団体の総意により設立された研究，教育に関するわが国唯一の総合機関でございます。

教育部としては下にあげること以外に，各社へ出張して，従業員教育の一助ともなる企画をももっております。

---

③ 機関誌　B5．64ページ2年20回発行　印刷常識，安全，衛生，色彩，物理化学，国語，歴史，論理，政経，一般科学，投稿，技術交換，技術ニュース等。

④ 添削レポート　技術および教養関係の講座について，添削課題やレポートを提出させる。

⑤ 面接授業　地域ごとに集って，科学や実技の授業をうけ，合宿訓練に参加して集団生活をする。

⑥ 私信交換　職場や個人の生活について，専門の講師が相談にのる。

4. 入学手続

① 100円切手を同封の上，入学願書，その他の必要書類を下記宛請求してください。

送付された書類に必要事項記入の上，必要経費と共にご返送下さい。

東京都墨田区本所4—29—17
(社)日本印刷技術協会
教育部
(振替，東京 29017番)

② 学費

入学金……1人 2,000円
(会員不要)

授業料……1人半年分
非会員　2,300円，
会員　1,800円

教材費……1人半年分　200円

◆研修科目

単色平版製版科……反射原稿によるカメラワーク，修正，平凹版焼付の全工程

多色平版製版科……透過原稿による分解，撮影，修正，平凹版焼付の全工程

凸版製版科……反射原稿による撮影，修正，焼付，腐蝕の全工程

単一学科……上記各科の中の一工程

◆研修日程

◦毎月，第2あるいは第3月曜日から金曜日

◦毎朝，9時から17時まで

◦ただし，単一学科は3日間
希望者は長期研修をおこなう

◆研修費用

	会員通教生	一般
単色平版製版科	10,000円	13,000円
多色平版製版科	〃	〃
凸版製版科	〃	〃
◦単一学科	5,000	7,000
◦分解のみ	8,000	11,000

積極的な支援を

神奈川正和会　大　川　英　郎

企業内において，計画的な教育訓練の行えない中小印刷会社にとって，この方面の教育機関の誕生が強く待望されていたにもかゝわらず，今回，業界の識者によって設立された「日本印刷技術協会」に対する業界の反応は，意外に低調を極めている様子である。協会のため，在京の緑友会関係者が多数参加して，非常な熱意をもって尽力されているが，それらの人々の中には失望の色をかくせない人さえ出てきている。

神奈川正和会では，二月の例会に協会の常務理事，教育委員長の市村元偉氏と常務理事，教育部長の中市良平氏を招いて「日本印刷技術協会」について，卒直な説明を聞く会を催したが，その結果，今まで認識の足りなかった面を大いに反省すると同時に，今後協会の活動に積極的に参加することを申し合せた。席上，市村氏，中市氏から，こんごも緑友会メンバーの協力を切望する旨の発言があったが，神奈川県においても，協会に対する関心は一般に低調であり，この際，正和会がこの問題の中核を形成する必要が痛感された次第である。

中央と地方の間には，なにかと意志の疎通を欠く面が介在するけれども，せっかく関係者の努力で設立をみた「日本印刷技術協会」が，その目的とするところを達成するためには，やはり各地の緑友会メンバーの積極的な支援を望むほかはないと思う。

通教生の声

私の勤務する会社は，従業員約70名。3年前から，活版から平版に移行し，事務用品，とくに複写印刷を扱っております。

私は，最近まで総務関係の仕事をしておりましたが，技術の進歩と，製品の向上をはかるため，旧制工高の機械科卒のため，技術研究にたずさわることになり，いまさらあわてております。

先般，静岡印刷文化典の際に，技術協会のあることを知り，会社としてもさっそくこれに加入してくれました。技術協会は，これからの業界に，ぜひとも必要なものと思いますし，まだ出来たての協会に期待しつつ，業界全体で，十分私たちの期待にこたえてくれるものに育成してくださることを願ってやみません。

富山（平版印刷高等科）**大　上　輝　夫**
（研究開発部員，旧制高専卒，経験5年34才）

拝啓，いつも通教生として指導していただき，心より感謝致しております。

私は写真製版課担当として入社してから，10年余りになりますが，先月号の記事「世にも不思議な物語」の主人公のように，いままで，だれにも負けない技術があると，うぬぼれていただけに，はずかしく思っております。

諸先生の指導をいただきながら，何の技術革新の波にものれず，ついていけない自分を，余りにも知らなかったことを恥かしいと自覚し，初心に帰って，やり直そうと思いますので，よろしくお願い申し上げます。

技能検定では，あがってしまい，十分の力も出せず，学科では，印刷の歴史がでたり，製版では余り使われない薬品の問題がでたりで，まごついてしまい，たいへんなあわてようでした。

基本から勉強しなおさなければならないと，つくづく考えさせられました。

東京（写真製版普通科）**山　本　英　二**
（カメラ担当，高校卒，経験7年24才）

日本印刷技術協会に望む

福岡印刷若葉会　間　茂　樹

日本印刷技術研究会が発展的に解消して，日本印刷技術協会として新しく誕生した事について，心からお祝いを申し上げます。

私共地方業者の多くは，やはり何かにつけて中央とのへだたりを感じています。緑友会の小堀前幹事長が，「今や中央と地方との格差は解消した」と力説されましたが，理屈ではそうかとわかっても，やはり心からうなづけないものがありました。

そこで，中央からえらい先生方を講師としておまねきをし，勉強するのですが，どうもピッタリこない。地方業界の実態はあまりご存知ないし，現実を無視した理想論にはつい反撥したくなる。ところが福岡印刷若葉会がお招きした，当時研究協会の常務理事だった，松尾真利先生は私共のなやみを実に良く理解しておられ，しかもその上で，地方業界が地方であるが故のハンディキャップに決して甘えてはならないこと。印刷物が印刷技術という共通のものから生み出されるものである以上，そこに中央とか地方とかで，少しでも差はあってはならない筈だときびしく教えられ，私共は大きな感銘を受けました。

私の会社の監督者訓練にも，数回お出でをお願いしましたが，こちらがびっくりする位気軽にやってこられます。それ以前に外部の専門家にたのんで，監督者訓練をやってもらったのですが，「みんなの前で部下を叱ってはいけない」だの「若い者の気持を理解しろ」と只それだけの一面的な人間関係論に毒されて，部下に命令することもできない情ない係長が多かったのですが，先生のまる一日の訓練で係長がすっかり自信をつけ，猛烈にハッスルする様になってびっくりした事があります。昨年六月の営業マンセミナーで，「東京の印刷会社で，夜の十時前に自宅にかえれるような営業マンは一人もいないぜ，それがいやなら印刷界から足を洗うんだな」とこんな調子で，当地方の微温的でマイホーム主義の多い営業マンのどぎもを抜き，仕事第一主義のど根性をたたきこんで戴いたのも，まだ記憶に新しいところです。

私はあの東京神田の旧印刷会館内にあった，きたないこと無類の旧印刷技術研究協会の事務所をなつかしく思い出します。たづねて行けば，何時も気さくに相談相手となって戴いた松尾先生を思い出します。

日本印刷技術協会が大規模な組織となり，立派なビルも建設されるそうですが，私共地方業者が感じていた旧研究協会や松尾先生に対するあの親しみ，なつかしさの気持だけは裏切って戴きたくないと思いますし，何時までも愛情を以って私共をご指導して戴くよう，お願いする次第です。

札幌総会せまる。

全国より集っての貴重な時間を有効にするため，研修会アンケートを早くまとめてお送り下さい。

アンケート　1.　全国賃金資料　　2.　原価構成比率と償却前利益の推移

技術協会に奉仕する緑友のメンバー

緑友会のメンバーで，日本印刷技術協会に協力し奉仕している人をあげてみた。日本の印刷のために，教育研究機関を確立しようとして，努力していただいていることを感謝したい。

専務理事 塚田　益男（東京印刷同友会）
常務理事 市村　元偉（　〃　）
　　小堀　正三（東京写真製版若葉会）
理　　事 宮城荘三郎（大阪青年印刷人クラブ）
　　吉田　市郎（東京印刷同友会）
　　野見山芳久（東京活字鳳友会）

研究部　　部長　松尾　真利
研究委員会委員長　馬渡　務
委　　員 岡田　祐時（東京写真製版若葉会）
　　和田　豊（文京緑友会）
　　山岡　景恭（東京印刷同友会）
　　宮城荘三郎（大阪青年印刷人クラブ）

教育部　　部長　中市　良平
教育委員会委員長　市村　元偉
　　副委員長　小堀　正三
委　　員 小林　行昌（東京印刷同友会）
　　大熊　暁三（　〃　）
　　山本　義治（　〃　）
　　近藤　一夫（　〃　）
　　中津川泰三（　〃　）
　　大川　英郎（神奈川正和会）
　　降旗　顕英（東京写真製版若葉会）
　　大森　敏雄（　〃　）
専門委員 安達　秀雄（東京印刷同友会）
　　山本　義治（　〃　）
　　海老　良周（大阪青年印刷人クラブ）

グループの動向

☆ 北九州ＹＰクラブ，役員，事務所変更

会　長　進　早人　日進印刷ＫＫ
副会長　貞末　敏郎　冷牟田印刷ＫＫ
幹　事　江島　昭二　門司印刷ＫＫ
〃　渡辺　守将　渡辺印刷所
〃　金重　健　博水館美術印刷ＫＫ

事務所　北九州市小倉区下到津９丁目
　　日進印刷ＫＫ　内
　　ＴＥＬ（北九州）(56) 4667番

☆ 神奈川正和会

43年２月22日　午後6.00例会

社団法人日本印刷技術協会常務理事，市村元偉氏，中市良平氏を招き，技術協会加入について説明をもとめられたが，非常に積極的な支援体制があり，神奈川県に割りあてられた口数を正和会で消化し，緑友の先頭に立とうとの発言もあり，市村氏を感激させた。

☆ 熊本の若返り人事　どうぞよろしく

幹事長　角　明彦　博文舎
副幹事長　瀬戸口和雄　瀬戸口印刷所
幹　事　石田　高義　石田印刷所
〃　山崎　明　中央印刷紙工
〃　橋本　潔輝　水前寺印刷
〃　酒本　弘　東洋印刷
緑友会常任幹事　酒本　弘

事務局　熊本市島崎町宮内290
　　白石印刷美術株式会社内
　　ＴＥＬ熊本(52)6812

クラブの近況

大阪青年印刷人クラブ　岩　岡　敏　志

ひときわ楽観を許さぬ企業環境の見透しの下で，経営と技術の改善に日々ベストを尽くしておられることと存じます。

当クラブ六十余名，元気に1968年を迎えることができました。今後さらに相互啓発のための活動を強め，いまなお脆弱さを懸念される業界・企業の経済基盤強化のために，幾分でも貢献することができれば――と念願しています。

紙上を借りて，昨年下半期来のクラブ事業について，簡単にご報告致します。

1.　トップ印刷人セミナー

昨年８月26日，27日の両日，神戸市有馬温泉〝有馬グランドホテル〟で，第３回の〝トップ印刷人セミナー〟を開催しました。例年どおり（株）印刷と世界社との共催。会員および一般から，53名の聴講者を集め，知識の吸収と相互の親睦に効果をあげました。講師陣には名古屋大学経済学部教授・末松玄六氏，松下電子（株）経理部長・石橋太郎氏，奈良薬師寺前管長・橋本凝胤師それに三洋電機（株）専務取締役・後藤清二氏のご協力を得ました。会費は宿泊料込みの１万円。大阪府印刷工業組合の重政理事長も多忙の中を参加され，二日間とも熱心に聴講頂きました。

2.　情報交換懇談会

10月下旬，市内〝太閤園〟で，約30名が出席して懇談会を開き，バーベキューを楽しみながら情報交換と歓談に約二時間を過しました。

3.　緑友会仙台大会への参加

10月21日仙台市で開かれた緑友会十回大会に，岩岡敏志・宮城荘三郎の二名が参加しました。

4.　年末労務懇談会

11月18日午後三時から，大阪府印刷工業組合労務委員会との共催で，近畿印刷保健センターを会場に年末労務懇談会を開きました。出席は約 200名，大阪印刷経営協議会の情勢報告，日本労務管理研究所長・渡辺光雄氏の講演「中小企業の賃金と賞与の考え方」重政大印工理事長の所見発表「年末一時金と経営者の姿勢」などを聴いたあと，懇談をかわしました。

5.　新年互礼会

さる１月19日，大阪ミナミの来山閣に，会員40名が出席して恒例の新年互礼会を催しました。

6.　今後の計画

２月は21日にボーリング大会，３月には工場見学会，そして４月は定時総会が予定されています。

この緑友だより11号を全国グループに送るに当り日本印刷技術協会より，皆さんへお願いをこめて「入会のしおり」をお送りして下さいということで緑友会員に一部宛同時に発送したのでごらん下さい。

全国印刷緑友会会員名簿

昭 43. 2. 20 現在

No.	会名	住所	電話	代表者	人数
1	札幌緑友会	札幌市北三条西2丁目 ㈱ 藤田印刷所	(22) 4111	藤田 俊雄	18
2	秋田昭和会	秋田市大町3—5—30 秋田県印刷工業組合内	(2) 2961	相沢 隆一	22
3	山形印刷研修会	山形市本町2丁目1-34 菅原印刷所	(2) 6291	菅原 金一	29
4	仙台刷親会	仙台市清水小路 丹野印刷	(21) 2471	大津 俊雄	56
5	茨城緑友会	水戸市梅香2丁目1—61 蓮田印刷所	(21) 2205	蓮田 久一	27
6	群馬緑友会	前橋市曲輪町81 原田印刷所	(2) 4367	石川 羚二	18
7	印刷同友会	東京都千代田区神田多町2-7	(251) 1667	白橋 達夫	112
8	文京緑友会	東京都文京区大塚4-39-13 文京印刷会館	(946) 4454	徳永 進	66
9	東京活字鳳友会	東京都千代田区三崎町3—4—9 宮崎ビル	(265) 3781	斎藤 実	10
10	東京写真製版若葉会	東京都千代田区三崎町2-42 製版会館	(261) 2558	日出島清司	68
11	神奈川正和会	横浜市南区永田町1,178 大川印刷所	(731) 3664	大川 英郎	25
12	新潟印刷新世会	新潟市東中通り1番町195 新潟県印刷工業組合	(66) 6695	本間 吉平	27
13	長野青年印刷人緑友会	長野市七瀬中町212 長野県印刷工業組合	(6) 3279	杉田 司	38
14	名古屋而立会	名古屋市東区高岳町2-2 印刷会館	(962) 7061	佐藤 忠博	48
15	ぎふ翠陽クラブ	岐阜市下岩崎仏供田74-8 大鹿印刷	(65) 5648	大鹿 洪二	46
16	神戸印刷若人会	神戸市生田区下山手通り5-21 兵庫県印刷工業組合	(34) 3857	角丸 時男	27
17	広島緑友会	広島市中町4-14 朝日製版印刷	(41) 3591	尾山 整三	10
18	福岡印刷若葉会	福岡市舞鶴1-2-25 九州印刷文化出版社	(65) 2675	間 茂樹	47
19	北九州YPクラブ	北九州市小倉区下到津9丁目 日進印刷	(56) 4667	進 早人	15
20	久留米プリンティングクラブ	久留米市両替町20 三淵祥文堂	(3) 6182	川原 弘	15
21	熊本プリンティングクラブ	熊本市島崎町宮内290 白石印刷美術 ㈱	(52) 6812	角 明彦	15
22	大阪青年印刷人クラブ	大阪市住吉区中加賀屋町4-22 岩岡印刷㈱	(671) 6331	岩岡 敏志	59
23	大阪二世会	大阪市東成区大今里町2-754 吉谷商会	(981) 6655	中島 敏春	15
24	下関青年印刷人緑友会	下関市長府町土居の内 昌栄堂印刷社	(45) 0105	中村 勇	13
25	佐世保青年印刷研究会	佐世保市瀬戸越町260 隆文社	(3) 6306	井上 実	10

編集後記

春一番とは，よい名の風である。この風がすぎ去ると日本の全土に春のきざしが濃くなってくる。

しかし今年は戦後最高の企業倒産が相つぎ，春の突風の一過性とはことかわり，倒産旋風はまだまだ荒れ狂うもようである。

このようなとき，私たちは企業防衛の日日のたたかいに心をうばわれるあまり，将来の展望を見失いがちとなる。

今日の環境がきびしければきびしいだけ，なおさら私たちは未来を見つめ，未来の姿から逆に今日をコントロールしなければならない。

緑友だより本号は，そのような思いをこめて，日本印刷技術協会特集とした。ご寄稿下された同志諸兄に感謝する。幸いに会員諸兄のご熱読とご協力を切におねがいする。

編集責任 幹事長 白石 豊
発行 全国印刷緑友会事務局